

北海道エスペラント大会開催記録

ESPERANTO-LERNANTO 1936年8月号

日本エスペラント学会

北海道[地方會を中心として] 沼田芳蔵

第74回北海道エスペラント大会 2010年10月2～3日 於:かでる2・7

リスト作成者:後藤義治

日本エスペラント協会100年史

一般財団法人日本エスペラント協会 2020年3月

北海道エスペラント連盟規約 付 2021年度北海道エスペラント連盟役員

検索結果一覧表

1936年08月 p25= 北海道の日蝕 ... 泉茂雄 p25

1936年08月 p26= 夏旅の靈感(こわく)、日本大会、北海道へ p26-27

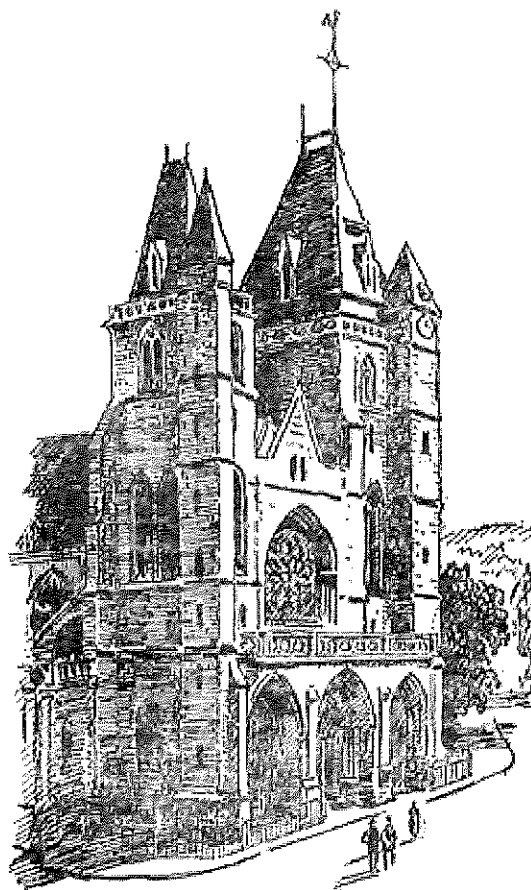
1936年08月 p28= 北海道 ... 沼田芳蔵 p28---30

エスペラント

ESPERANTO-LERNANTO

八月 號

第7巻第1号(1936年12月) 第8巻第1号(1937年1月) 第9巻第1号(1937年2月) 第10巻第1号(1937年3月) 第11巻第1号(1937年4月) 第12巻第1号(1937年5月) 第13巻第1号(1937年6月) 第14巻第1号(1937年7月) 第15巻第1号(1937年8月) 第16巻第1号(1937年9月) 第17巻第1号(1937年10月) 第18巻第1号(1937年11月) 第19巻第1号(1937年12月) 第20巻第1号(1938年1月) 第21巻第1号(1938年2月) 第22巻第1号(1938年3月) 第23巻第1号(1938年4月) 第24巻第1号(1938年5月) 第25巻第1号(1938年6月) 第26巻第1号(1938年7月) 第27巻第1号(1938年8月) 第28巻第1号(1938年9月) 第29巻第1号(1938年10月) 第30巻第1号(1938年11月) 第31巻第1号(1938年12月) 第32巻第1号(1939年1月) 第33巻第1号(1939年2月) 第34巻第1号(1939年3月) 第35巻第1号(1939年4月) 第36巻第1号(1939年5月) 第37巻第1号(1939年6月) 第38巻第1号(1939年7月) 第39巻第1号(1939年8月) 第40巻第1号(1939年9月) 第41巻第1号(1939年10月) 第42巻第1号(1939年11月) 第43巻第1号(1939年12月) 第44巻第1号(1940年1月) 第45巻第1号(1940年2月) 第46巻第1号(1940年3月) 第47巻第1号(1940年4月) 第48巻第1号(1940年5月) 第49巻第1号(1940年6月) 第50巻第1号(1940年7月) 第51巻第1号(1940年8月) 第52巻第1号(1940年9月) 第53巻第1号(1940年10月) 第54巻第1号(1940年11月) 第55巻第1号(1940年12月) 第56巻第1号(1941年1月) 第57巻第1号(1941年2月) 第58巻第1号(1941年3月) 第59巻第1号(1941年4月) 第60巻第1号(1941年5月) 第61巻第1号(1941年6月) 第62巻第1号(1941年7月) 第63巻第1号(1941年8月) 第64巻第1号(1941年9月) 第65巻第1号(1941年10月) 第66巻第1号(1941年11月) 第67巻第1号(1941年12月) 第68巻第1号(1942年1月) 第69巻第1号(1942年2月) 第70巻第1号(1942年3月) 第71巻第1号(1942年4月) 第72巻第1号(1942年5月) 第73巻第1号(1942年6月) 第74巻第1号(1942年7月) 第75巻第1号(1942年8月) 第76巻第1号(1942年9月) 第77巻第1号(1942年10月) 第78巻第1号(1942年11月) 第79巻第1号(1942年12月) 第80巻第1号(1943年1月) 第81巻第1号(1943年2月) 第82巻第1号(1943年3月) 第83巻第1号(1943年4月) 第84巻第1号(1943年5月) 第85巻第1号(1943年6月) 第86巻第1号(1943年7月) 第87巻第1号(1943年8月) 第88巻第1号(1943年9月) 第89巻第1号(1943年10月) 第90巻第1号(1943年11月) 第91巻第1号(1943年12月) 第92巻第1号(1944年1月) 第93巻第1号(1944年2月) 第94巻第1号(1944年3月) 第95巻第1号(1944年4月) 第96巻第1号(1944年5月) 第97巻第1号(1944年6月) 第98巻第1号(1944年7月) 第99巻第1号(1944年8月) 第100巻第1号(1944年9月) 第101巻第1号(1944年10月) 第102巻第1号(1944年11月) 第103巻第1号(1944年12月) 第104巻第1号(1945年1月) 第105巻第1号(1945年2月) 第106巻第1号(1945年3月) 第107巻第1号(1945年4月) 第108巻第1号(1945年5月) 第109巻第1号(1945年6月) 第110巻第1号(1945年7月) 第111巻第1号(1945年8月) 第112巻第1号(1945年9月) 第113巻第1号(1945年10月) 第114巻第1号(1945年11月) 第115巻第1号(1945年12月) 第116巻第1号(1946年1月) 第117巻第1号(1946年2月) 第118巻第1号(1946年3月) 第119巻第1号(1946年4月) 第120巻第1号(1946年5月) 第121巻第1号(1946年6月) 第122巻第1号(1946年7月) 第123巻第1号(1946年8月) 第124巻第1号(1946年9月) 第125巻第1号(1946年10月) 第126巻第1号(1946年11月) 第127巻第1号(1946年12月) 第128巻第1号(1947年1月) 第129巻第1号(1947年2月) 第130巻第1号(1947年3月) 第131巻第1号(1947年4月) 第132巻第1号(1947年5月) 第133巻第1号(1947年6月) 第134巻第1号(1947年7月) 第135巻第1号(1947年8月) 第136巻第1号(1947年9月) 第137巻第1号(1947年10月) 第138巻第1号(1947年11月) 第139巻第1号(1947年12月) 第140巻第1号(1948年1月) 第141巻第1号(1948年2月) 第142巻第1号(1948年3月) 第143巻第1号(1948年4月) 第144巻第1号(1948年5月) 第145巻第1号(1948年6月) 第146巻第1号(1948年7月) 第147巻第1号(1948年8月) 第148巻第1号(1948年9月) 第149巻第1号(1948年10月) 第150巻第1号(1948年11月) 第151巻第1号(1948年12月) 第152巻第1号(1949年1月) 第153巻第1号(1949年2月) 第154巻第1号(1949年3月) 第155巻第1号(1949年4月) 第156巻第1号(1949年5月) 第157巻第1号(1949年6月) 第158巻第1号(1949年7月) 第159巻第1号(1949年8月) 第160巻第1号(1949年9月) 第161巻第1号(1949年10月) 第162巻第1号(1949年11月) 第163巻第1号(1949年12月) 第164巻第1号(1950年1月) 第165巻第1号(1950年2月) 第166巻第1号(1950年3月) 第167巻第1号(1950年4月) 第168巻第1号(1950年5月) 第169巻第1号(1950年6月) 第170巻第1号(1950年7月) 第171巻第1号(1950年8月) 第172巻第1号(1950年9月) 第173巻第1号(1950年10月) 第174巻第1号(1950年11月) 第175巻第1号(1950年12月) 第176巻第1号(1951年1月) 第177巻第1号(1951年2月) 第178巻第1号(1951年3月) 第179巻第1号(1951年4月) 第180巻第1号(1951年5月) 第181巻第1号(1951年6月) 第182巻第1号(1951年7月) 第183巻第1号(1951年8月) 第184巻第1号(1951年9月) 第185巻第1号(1951年10月) 第186巻第1号(1951年11月) 第187巻第1号(1951年12月) 第188巻第1号(1952年1月) 第189巻第1号(1952年2月) 第190巻第1号(1952年3月) 第191巻第1号(1952年4月) 第192巻第1号(1952年5月) 第193巻第1号(1952年6月) 第194巻第1号(1952年7月) 第195巻第1号(1952年8月) 第196巻第1号(1952年9月) 第197巻第1号(1952年10月) 第198巻第1号(1952年11月) 第199巻第1号(1952年12月) 第200巻第1号(1953年1月)



ĉefpreĝejo de la Andaluzoj, Seviljo, Hispanio

Augusto 1936

N-ro 8 Jaro IV

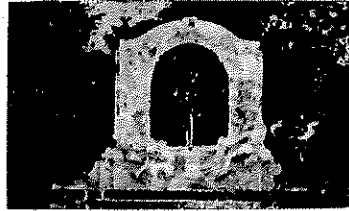
Japana Esperanto-Instituto TOKIO

検索結果一覧表

1936年08月 p25= 北海道の日蝕 … 泉茂雄 p25

1936年08月 p26= 夏旅の靈感(こわく)、日本大会、北海道へ p26-27

1936年08月 p28= 北海道 … 沼田芳蔵 p28---30



エスペラント

第四年 第八號 内容

昭和十一年八月一日發行

ラブランド

初等エスペランティストのためのよみもの …………… 2

前置詞略解・DE

初等, 中等の人々のための親切な前置詞講義 ……小坂 猶二… 6

文の形態と分類

エスペラント作文の基礎知識 ……………倉地 治夫…10

楽しきさすらびびど [楽譜附エスペラント譯唱歌]…川村信一郎…14

大空の驚異

ウフ、特作長篇グライダー映畫物語 ……………16

独立のペイチ

2. 鐵道のエスペラント運動 ……………小松 文夫… 9

3. エスペラント時代……………相澤 治雄…13

北海道の日蝕 [時のエスペラント文] ……………泉 茂雄…19

夏旅の靈感, 北海道へ

第二十四回日本エスペラント大會豫報……………20

北海道 [地方會を中心として]……………沼田 芳蔵…22

日本のエスペラント運動

エスペランティストの常識—kiu-kio-kie-kiam 8…高木 弘…26

私にエスペラント

自由作文の講評 ……………中垣虎兒郎…30

寫真雜誌から

和文エス譯の講評 ……………三宅史平…34

へろるど・えすべらんだ [エスペラント界の新聞]……………38

質疑應答……………岡本好次…39

編輯後記……………40

扉・イタリー鐵道省發行エスペラント文案内記

表紙・カット…………ロード作

1936年08月 p25= 北海道の日蝕 ... 泉茂雄 p25
1936年08月 p26= 夏旅の蠱惑(こわく)、日本大会、北海道へ p26-27
1936年08月 p28= 北海道 ... 沼田芳蔵 p28---30

地方會を中心として・5

北海道

沼田芳蔵

氏、高瀬正榮氏等で瀧美穂雄氏(現岐阜高等農林學校教授)が學會に入會されたのは此の頃であつた。大正10年3月(1921)札幌の重續たる三田智大氏を帶

北海道エスペラント運動小史

個人研究時代 (1901-1918) 明治年間日本のエスペラント運動が漸く組織時代に移らうとした頃から文化の恵み多い北海道にあつて個人的に研究をしてゐた人達があつた。然し其の数は極めて僅少で、本道エスペラント運動への第一歩を踏み至らなかつたと想像される。其の當時の人々は飯田氏(札幌農學校)、山田喜一氏(北海タイムス)、向井氏(小樽)、將校數名(旭川)等其の他各地にも研究者があつたらしいが、何分昔のことで記録等もなく研究の程度等はわからない。

組織普及時代 I (1919-) 大正に入つても永く個人研究時代が續けられ8年(1919)に至り、札幌エスペラント運動の先覚者三田智大氏(當時北大生、現青森縣三木木農學學校教授)が友人と共に、本道文化の源泉とされた北大に「北大エスペラント會」を組織するに及び本道エスペラント運動の華は咲くに至つた。高橋邦太郎氏がミスミ発電所工事のため東道され、北海タイムス紙上を通じてエスペラントの宣傳に努められたのは此の頃であつた。越えて9年5月(1920)小坂猪二氏(現學會理事)が札幌を訪問され釧路集會所で講演があつた。この時の出席者は150名を越え、氏の講演は北海道人の、エスペラントに對する認識を深めた。同年6月札幌エスペラント研究會が生れ、札幌を中心とする組織運動の第一歩を踏み出した。

札幌エスペラント研究會が生れるに及び漸くエスペラントの街頭進出が企てられた。即ち順次講習會を開催し會員の獲得と宣傳に努めた結果、大正9年及10年度に於ける札幌エスペラント研究會關係の講習會開催數3回に及び其の受講者延人員は205名に達した。

當時講習會を牛耳つてゐた人々は三田智大

氏、高瀬正榮氏等で瀧美穂雄氏(現岐阜高等農林學校教授)が學會に入會されたのは此の頃であつた。大正10年3月(1921)札幌の重續たる三田智大氏を帶廣に送つた後は菊本、長濱、藤原、小田切、興村の諸氏が毎週一回の集會をやつてゐた。

この頃の學會會員數は、札幌25名、函館2名、室蘭1名、夕張1名、倶知安1名、琴似1名、計31名であつたが、大正11年(1922)には素清らしい激増をなし、札幌27名、函館21名、小樽6名、室蘭3名、其の他9名、計66名に及んだ。大正12年(1923)東京から佐々木孝丸氏、岡本好次氏、石黒修氏等學生エスペラント宣傳隊として東道され、小樽、札幌、函館、旭川、室蘭の各地で講演をし、大いに宣傳に努められた。當時の學會會員數は、札幌30名、函館15名、小樽7名、室蘭9名、其の他27名、計88名であつて、この頃から本道に於ける地方的組織時代に入つた。大正13年1月(1924)函館エスペラント會が生れ、同14年には小樽エスペラント會が誕生した。函館の如きは設立當時會員14名を有し13年度に於ける講習會開催數が12回に及んでゐる。また翌年には虎渡、橋本の兩氏がゼネバに開催された第17回萬國大會に出席して我國エスペラントのため萬丈の氣をはいた等當時の函館エスペラント會の活躍は目覺ましい勢であつた。

組織普及時代 II (1929-) 昭和3年(1929)

苫小牧工業學校教諭渡部陸志氏がエスペラントの獨習を始められた。當時氏は病床にあつたが、氏の熱心さはエスペラントとともに自己の身體をも完全に征服されたのである。昭和4年(1929)1月から3月まで氏は苫小牧工業學校土木、建築科生徒三年生全部に毎週二時間づゝ、當時の校長山賀廣治氏(現金澤市立工業學校長)の良き了解のもとに準正科として課した。これが苫小牧地方における組織的運動の第一歩であつた。

渡部氏はその後町内方面まで宣傳され、同

検索結果一覧表

1936年08月 p25= 北海道の日蝕 … 泉茂雄 p25

1936年08月 p26= 夏旅の憂惑(こわく)、日本大会、北海道へ p26-27

1936年08月 p28= 北海道 … 沼田芳蔵 p28---30

エスベラント

年10月には受講希望者12名を得、同氏宅で講習する等の奮闘の結果5年(1930)12月15日サメソフ祭を機として苫小牧エスベラント会の誕生を見たのである。昭和6年(1931)渡部氏は北米カナダの視察旅行をされ大いにエスベラントを適用された。越えて昭和7年(1932)には苫小牧エスベラント會機關誌“La Granda Urso”および氏の個人誌“La Norda Kruco”を發刊したほか、昭和10年(1935)富山工業學校に轉任されるまで講習指導に、宣傳に北海道エスベラント界に盡力された氏の功績はあまりにも大きい。

苫小牧エスベラント會の誕生に先だち昭和3年(1928)にエスベラント普及會北海本部が山部に設立された。これは京都府龜岡町に本部のあつたエスベラント普及會の分身である。昭和4年(1929)2月元北大エスベラント會幹事申村久雄氏が普及會北海本部に幹事として就任された後は、地方的運動の促進を目的として、講習會、講演會、展覽會等を隨處に開催して大いにその實を上げた。今その講習會開催数を統計的に示せば次の如くである。

地 名	期 数	受講者数	釧 路 市	7・6	25	函 館 市	8・9	10
帯 廣 市	昭和4年7月	64名	留 萌 町	7・7	10	室 蘭 市	8・10	20
下富良野町	5・11	44	旭 川 市	7・9	20	釧 路 市	9・8	7
鷹 栖 村	6・4	35	根 室 町	7・10	25	名 寄 町	9・10	6
旭 川 市	7・4	25	稚 内 町	8・1	35	旭 川 市	9・10	3
鷹 栖 村	7・4	15	岩 内 市	8・4	50	合 計	19回	434名
黒松内市街	7・6	15	札 幌 市	8・6	25			

上記講師としては、申村久雄、増田亮平、上野隆司氏等が當られた。尙上記講習地で地方會設立のない都市には講習の終り次第エスベラント會が結成された。今その會名をあげると、昭和6年度普及會鷹栖支部、7年度、同旭川支部、同黒松内支部、釧路エスベラント會、根室エスベラント會、8年度、普及會稚内支部、室蘭エスベラント會等である。その他昭和7年及8年にハンガリーの同志マヨーム氏來道の際は帯廣、山部、旭川、札幌、小樽、牧小苫の各地で講習會を開催した。その回数12回に涉り聴衆數3000餘名に達した。

一方帯廣方面は、大正10年(1921)札幌から三田智大氏が十勝農業學校に來任され、講習會幸しばし開催し熱心に運動を續けられた。

昭和2年(1927)8月、三田智大氏、中村久雄氏を講師として帯廣小學校に初等講習會を開催し受講者60餘名を得た。これが後日帯廣エスベラント會發生の基礎となつたのである。その後數回にわたり講習會を開き、普及に力めつゝあつたが、昭和7年(1932)3月、原田三馬氏が稚内から來任され、鷹谷信幸、上田一男、堀田勝彦の諸氏とともに三田氏を補佐し十勝における普及實行運動に入つた。昭和8年(1933)には附近の菅更村、本別町、池田町、方面に進出し講習をした。同年元老三田氏を青森縣三本木農學校に送つた後、鷹谷、上田、堀田の諸氏がそれぞれの事情からエスベラント運動から遠ざかり、帯廣エスベラント會の重大危機を招來したが、原田氏を中心とする講習は幾回となく繰返された。一方また小樽方面も昭和初期に社會運動的色彩を混入した結果、tendenciaなものとなつたものが分岐して、次第に運動は活潑を

缺くやうになつて來たが、昭和6年(1931)に市内奥澤青年團主催の講習會を奥澤小學校に近隣、川崎の兩氏指導の下に開催するに及び、講習生80を得、往年の小樽エスベラント會へと更正の一步を踏み出した。同年6月14日奥澤町の藤川氏宅で更正第一回の會合をした、同日は出席者30名のほかちやうど入港中のドイツ練習艦エムデンから3名の同志が出席した。昭和7年(1932)にはAntaüen會が生れ同8年1月福田仁一氏が來樽、小樽エスグループを創設し、Antaüen會と合同したが其の後9年度に同地で催される第三回北海道エスベラント大會の準備上小樽エ

検索結果一覧表

1936年08月 p25= 北海道
の日蝕 … 泉茂雄 p251936年08月 p26= 夏旅の
靈感(こわく)、日本大会、
北海道へ p26-271936年08月 p28= 北海道
… 沼田芳蔵 p28---30

ペラント會とも合同し全小樽を一九とする小樽エスペラント協會の結成を見たのである。元來同地は地域廣大なため會合を統一することが困難な結果、必然的に數個のグループが生れた。普及會支部、エスペラント會話會、佛教エスペラント會等がそれである。

昭和に入つて後の札幌方面は札幌エスペラント研究會が解消して札幌エスペラントクラブが生れ同4年(1929)2月北大學生集會所に開かれた北大エスペラント會總會の結果現在の札幌エスペラント會が結成された。同年10月札幌鐵道局内に講習會を鐵道集會所で開催し、受講者30名を得た。當時の講師は、田上、花田、河野の諸氏で、これが後日札幌エスペラント會が生れる基礎となつたのである。此の頃の北海道會會員數は札幌27名、函館26名、小樽5名、釧路2名、旭川2名、帯廣4名、山部5名、その他20名、計91名であつた。

昭和5年(1930)に至り北大エスペラント會、札幌エスペラント會、札幌エスペラント會、札幌希望社エスペラント會および、その他の個人同志を加へて札幌エスペラント聯盟が組織された。其の後は相澤治雄氏および第二十二回萬國大會(オックスフォード)に出席された日本佐三氏や浪越春雄氏が講習を指導してゐた。

北海道エスペラント大會

昭和7年(1932)3月、苫小牧の渡部氏、帯廣の堀田氏、三田氏、山部の中村氏等が北海道エスペラント大會を計畫し各地方會に檄を飛ばした結果、同年8月5-7の三日間にわたり山部市街の小學校に於て多大の喜びと期待のもとに我が第1回北海道エスペラント大會が開かれた。この時の出席者は8地方會から18名、他に普及會からヨセフ・マヨール氏と井上照月氏が出席された。この大會で特に記憶すべきことは、北海道エスペラント聯盟(Hokkaido Esperanto-Ligo)の結成である。第2回大會から翌8年度札幌に於ける大會までのH.E.L.の本部は帯廣エスペラント會内に設置されたが、事實上の事務は普及會北海道本部に委託された。尙上記マヨール氏は歸途

札幌放送局から「日本とハンガリーの友情」といふ題で講演放送をしたほか、各地で講演をされた。

昭和8年(1933)4月15日北海道エス運動史上に忘れることの出来ぬ北大赤化事件が突發した。同事件の餘波は札幌ばかりでなく全道的に甚大な影響を及ぼしたが、同年9月23-24の兩日札幌に第2回北海道エスペラント大會には各地代表出席者32名におよぶ盛況を示した。同大會の協議事項は、北海道エスペラント運動史編纂の件、ネオロギスモ排斥の件、赤色分子排斥の件等であつた。ネオロギスモの件は8年度日本大會に提案された。なほ本大會で協議の結果H.E.L.の本部は北海道の中心地である札幌へと移轉した。昭和7年(1932)年度第1回北海道エスペラント大會が開催されるに先だち中村久雄氏を講師とする初等講習會が、旭川市實科高女で開催され、約一週間の講習の後同地に普及會支部の設立を見た。その後昭和9年(1934)に竹吉正廣氏が提議、高橋の兩氏と共に旭川エスペラント研究會を組織し、普及會支部と離れたが、翌年武田威勢氏、渡部彦志氏、高宮アイ氏等の奔走の結果現在の旭川エスペラント會の成立を見た。その後木津義雄氏が會長となり一發の飛躍を遂げつゝある。

昭和9年(1934)小樽市で第3回北海道エスペラント大會開催、出席者47名、協議事項としては本道中等學校にエスペラントを隨意科として採用方を道廳當局に請願の件、第24回日本大會を札幌に招待の件等が議決された。越えて昭和10年(1935)には北海道エスペラント界の重鎮渡部と本道を去り新人待望の聲が高まつて來た。即ち3月札幌の瀧美氏岐阜高等農林へ、4月、苫小牧の渡部氏富山工業へ、5月、帯廣の原田氏が東京へ等である。同年8月3、4の兩日帯廣で第4回北海道エスペラント大會開催、出席者25名。協議事項、エス文郷土讀本作成の件、第23回日本大會に代表派遣の件等であつた。

昭和10年9月22日名古屋に開催された第22回日本大會で北海道エスペラント聯盟提出の第24回大會札幌に招待の件が可決すると全道の同志は一丸となり札幌エスペラン

北海道

検索

◇白黒のgif画像に変更 ◆画像隠す

検索結果一覧表

1936年08月 p25= 北海道
の日蝕 … 泉茂雄 p251936年08月 p26= 夏旅の
蠱惑(こわく)、日本大会、
北海道へ p26-271936年08月 p28= 北海道
… 沼田芳蔵 p28---30

◀ ◁ 031 頁画像 ▶ ▷

🔍 🔍 🔍

ト會を中心に着々と其の準備工作に邁進しつ
つある。

現在の各地方會状勢

札幌エスベラント會 (北海道エスベラント
聯盟事務所) 札幌市南四條西十四丁目。幹事
相澤治雄氏が佐藤徳治氏、渡越春雄氏、木村喜
任治氏、等と共に指導しつゝある。第24回
日本大會開催のため多忙で目下講習會等の
開催をなし、機關誌 La Urso を発行し、目
下會員約25名。

函館エスベラント會 函館市蓬萊町電停前
幹事小田島榮氏、吉田榮氏、昭和9年(1934)
3月21日無惨にも強風と大火に見舞れた函
館市は一朝にして焼野原と變じた結果エスベ
ラント運動も自然停止の状態に陥つた。現在
會合や講習會等はないが兩幹事の熱のある努
力により、やがて函館エスベラント界にも春
が来ることであらう。

旭川エスベラント會 旭川市一條通七丁目
會長木津義雄氏、副會長武田威勢氏、幹事川
名正二郎、竹吉正廣、高宮アイ、遠藤正臣、
當摩憲三の諸氏で、現在初等講習會を毎週火
土曜に二條通八丁目中屋茶店路上で、中等部
を會長宅で開催中、初等講習生25名、中等
講習生約15名で、會員57名、益々その前
途を期待されてゐる。機關誌 "Fenikso"。

苫小牧エスベラント會 苫小牧町大町47。
代表者岡垣千一郎氏で渡部隆志氏が富山に去
られた後は鈴木春吉氏と共に講習指導に當ら
れてゐる。初等講習會毎週土曜日、受講者10
名、中等部水曜日、受講者約5名で、現在會
員約15名を有し機關誌 "La Granda Urso."

苫小牧工業學校同窓生エスベラント會 苫
小牧町本町43 顧問渡部隆志氏、幹事村山自
助、藤本五郎、土田豊諸氏、この會は會名でも
示してゐるとほり苫小牧同窓生エスベラント
の集りで、工業技術方面の人が主である。
従つて會員が各地に散在してゐる關係上會合
等は持たず、機關誌 "La Plinto" に依り連
絡をしてゐる風変わりな會で目下會員18名。

札幌エスベラント會 札幌鐵道局内。札幌
鐵道局局員エスベラントの集りで、目下

會員十數名、札幌エスベラント會と共に本夏
開催の日本大會準備中。

帯廣エスベラント會 帯廣市西三條八丁目
會長塚川勝氏、副會長菅沼寛氏、幹事長谷川
守氏、佐藤松男氏および筆者で現在初等講習
を副會長宅で、毎週月、金、佐藤松男氏が指
導し、中等講習を會長宅で毎週木曜長谷川守
氏指導。會員數約30名、今春以來會長の良
き理解の下に該會事の活躍の結果學會支部の
設置、機關誌 "La Verda Triumfo" の發刊
等の發展を遂げつゝある。

小樽エスベラント聯盟 小樽市色内町五丁
目。

1. 小樽エス協會 小樽市緑町4ノ1。會
長坂下清一氏、幹事福田仁一、藤川哲藏、小安
秀、桐野與太郎、江口普吉の諸氏で會員12名。

2. 小樽佛教エス會 小樽市入船町3ノ1
法徳寺内、會長岡崎英雄氏、幹事本間源吾、
邊見敏男、藤川哲藏の諸氏で、佛教方面の同
志の集りで、現在會員25名。

3. 小樽エス會話會 小樽市汐見臺町40。
幹事の高橋要一氏が主として指導、目下會員
8名。

上以小樽エス協會、小樽佛教エス會、小樽
エス會話會が聯盟を組織してゐる。幹事諸氏
はいづれも本道一流のエスベラントナストな
ので將來の發展はすばらしいことであらう。

釧路エスベラント會 近年少し活潑を缺い
てゐるが古い同志として知られてゐる矢野武
志、佐々木喬淵、藤野謙助、三浦順一、丹貞
一の諸氏、往年の強豪が控へてゐるので、ぜ
ひともこの際活潑な運動を起されることを望
んでやまない。

上記各地方會の他岩見澤の岡本義雄氏、足
寄の濱中源吉氏、静内(日高)の上田芳蔵氏、
落石の山下文雄氏等々多數の同志が各地に普
及しつゝある。尙東部地方はエスベラント會
設立後指導者に恵まれなかつた關係上、次第
に活潑を缺き普及會關係の各支部もまた大本
教の解消とともに衰亡の運命をたどるに至つ
た。

以上で大體の歴史は書いたつもりである
が、筆者漢學のためこの文にもれてゐること
も少くないかと思ふ。お教へを乞ふ。

北海道エスぺラント連盟の大会開催記録

大会回	年 月 日	開催地	場 所	参加人数
第 1 回	1932-8. 5~7	山部村	大本北海別院	21人
第 2 回	1933-9. 23~24	札幌市	鉄道集会所	32
第 3 回	1934-9. 23~24	小樽市	千代田ビル	47
第 4 回	1935-8. 3~4	帯広市	十勝公会堂	60
第 5 回	1936-8. 9~10	札幌市	グランドホテル	27
	1937-	旭川市	<i>Ne okazis</i>	
第 6 回	1938-8. 7	旭川市	商工奨励館	18
第 7 回	1939-9. 24	札幌市	富貴堂ホール	37
第 8 回	1940-10. 27	小樽市	北海ホテル	15
第 9 回	1941-9. 23	札幌市	豊平館	27
第10回	1942-10. 11	札幌市	札幌幼稚園	16
	1943~45		<i>Dum la Mondo milito ne okazis</i>	
第11回	1946-9. 22	札幌市	定鉄労働組合	18
	1947-10. 5		<i>Ne okazis</i> (北大中央講堂を予定)	
第12回	1948-11. 3	札幌市	公民館	47
第13回	1949-11. 3	札幌市	労働会館	49
第14回	1950-8. 6	小樽市	丸井デパート	23
第15回	1951-10. 7	札幌市	町村会館	30
第16回	1952-10. 13	札幌市	市民会館(豊平館)	42
第17回	1953-10. 11	小樽市	労働会館	36
第18回	1954-9. 23	札幌市	町村会館	50
第19回	1955-10. 2	小樽市	水天宮	24
第20回	1956-9. 23	札幌市	町村会館	57
第21回	1957-9. 22~23	小樽市	産業会館	30
第22回	1958-8. 9~10	札幌市	産業会館	64
第23回	1959-8. 23	札幌市	市民会館	67
第24回	1960-8. 21	室蘭市	産業会館	64
第25回	1961-7. 23	札幌市	豊平館(中島公園)	56
第26回	1962-7. 21~22	苫小牧市	産業会館	59
第27回	1963-8. 3~4	小樽市	祝津練御殿	46
第28回	1964-6. 6~7	室蘭市	労働会館	72
第29回	1965-6. 12~13	札幌市	道庁職員共済会館	102
第30回	1966-7. 9~10	札幌市	道庁職員共済会館	71
第31回	1967-6. 3~4	小樽市	朝里川温泉センター	43
第32回	1968-5. 26~27	札幌市	市民会館	31
第33回	1969-8. 9~10	函館市	拓銀ビル	74
第34回	1970-8. 8~9	室蘭市	グランド洞爺(洞爺湖)	42

第35回	1971-8. 7~8	苫小牧市	市民会館・ハイランドスポーツハウス	85
第36回	1972-7. 8~9	札幌市	中山峠健民センター・トレーニングハウス	58
第37回	1973-8. 18~19	小樽市	朝里川温泉センター	41
第38回	1974-7. 27~28	札幌市	真駒内青少年センター	63
第39回	1975-6. 14~15	函館市	市民会館	50
第40回	1976-7. 24~25	札幌市	都市会館	40
第41回	1977-7. 23~24	旭川市	サンケイ会館	27
第42回	1978-9. 23~24	苫小牧市	市民会館・選手強化合宿所	38
第43回	1979-7. 28~29	小樽市	朝里川温泉 山水	45
第44回	1980-7. 19~20	札幌市	道庁職員共済会館	27
第45回	1981-7. 25~26	札幌市	道庁職員共済会館	45
第46回	1982-8. 7~8	札幌市	ホテル・ノースシテイ	40
第47回	1983-9. 17~18	札幌市	北海道自治会館	25
第48回	1984-9. 22~23	札幌市	北海道自治会館	21
第49回	1985-9. 7~8	札幌市	北海道自治会館	32
第50回	1986-9. 6~7	札幌市	北海道クリスチャンセンター	51
第51回	1987-9. 12~13	札幌市	北海道クリスチャンセンター	47
第52回	1988-8. 21	札幌市	北海道自治労働会館(75回日本大会)	36
第53回	1989-9. 30~10. 1	札幌市	北大国際学術交流会館	57
第54回	1990-9. 29~30	苫小牧市	サイクリング・センター 市民会館	63
第55回	1991-9. 28~29	札幌市	北海道高教組センター	66
第56回	1992-9. 12~13	札幌市	北海道高教組センター	49
第57回	1993-9. 25~26	小樽市	小樽市民会館	56
第58回	1994-9. 24~25	室蘭市	室蘭港湾労働者福祉センター	30
第59回	1995-9. 30~10. 1	札幌市	母子福祉センター・教育文化会館	41
第60回	1996-9. 28~29	岩見沢市	サンライフ岩見沢	36
第61回	1997-11. 1~9	札幌市	プラザ新琴似・ロンデタージョ他	157
第62回	1998-10. 17~18	苫小牧市	苫小牧港湾労働者福祉センター	54
第63回	1999-9. 20~26	札幌市	市民会館・かでの2・7	40
第64回	2000-9. 9~10	小樽市	小樽港湾労働者福祉センター	21
第65回	2001-9. 23~24	札幌市	かでの2・7	40
第66回	2002-10. 10~13	江別市	厚別市民センター	36
第67回	2003-9. 13~14	苫小牧市	文化交流センター	28
第68回	2004-10. 30~31	札幌市	かでの2・7	22
第69回	2005-10. 29~30	登別市	ネーチャーセンター・ふおれすと鉾山	11
第70回	2006-9. 30~10. 1	札幌市	かでの2・7	30
第71回	2007-7. 28~29	札幌市	かでの2・7	27
第72回	2008-9. 13~14	札幌市	ジェイアール北海道社員研修センター	23
第73回	2009-10. 3~4	札幌市	かでの2・7	23
第74回	2010-10. 2~3	札幌市	かでの2・7	23

年	JEI	日本のE界	世界のE界	一般社会
1921	東北等にE宣伝隊派遣 川原次吉郎、井上万寿蔵、長谷川理衛、堀真道、進藤静太郎ら、水戸、仙台、盛岡、弘前、秋田、山形、米沢、新潟、長野、松本で講演会開催(7.20~31) 会員 8月に720名、12月に995名	第13回UK(プラハ)に新渡戸稻造、藤沢親雄、宇佐美玲彦、成田重郎出席	国民性なき全世界協会(SAT: Sennacieca Asocio Tutmonda)、ランティらにより設立	ワシントン会議
1922	会員 8月に1092名、12月に1473名	衆議院「Eに関する調査請願」を採択 大本、Eを採用	国際連盟第3回総会にて、「国際補助語Eを公立学校の課目に編入する」ことに関する提案を可決、国際連盟事務次長の新渡戸稻造が尽力 国際連盟協会にE部設置 各国でEのラジオ放送始まる(米国、イギリス、ソ連、カナダ、ブラジル等 ~ 1924) ハンガリーから文芸誌 "Literatura Mondo" 刊行(~ 1938)	ソ連成立
1923	東北・北海道にE宣伝隊派遣 石黒修、豊川善暉、岡本好次、佐々木孝丸、中村喜久夫ら、仙台、盛岡、青森、函館、小樽、札幌、旭川、室蘭、秋田、土崎、米沢、福島、山形で普及講演会開催(5.26~6.16) 会員 8月に2440名	大本E研究会設立(6.28)(後のE普及会(EPA) 1925~) 第11回日本E大会(岡山 8.31~9.1)、関東大震災のため中断、初めての関東以外での開催		関東大震災
1924	出版事業開始『E講習用書』小坂狷二著を発行	日本E医学連盟結成(1月) 九州E-ist連盟発足、第1回大会		

年	JEI	日本のE界	世界のE界	一般社会
1925	小坂狷二、米・欧に出張(~1927)、JEI事務所は小坂の借家をJEIとして賃借、三石五六、岡本好次らにより運営		国際電信組織にて、E文の電報は「平文」(暗号ではない)と認められる 最初のE単語入りの切手がソ連から発行される	治安維持法・普通選挙法制定 ラジオ放送開始
1926	文部省認可により「財団法人日本エスペラント学会」となる(7.2) 初代理事長 中村精男就任 『新撰エス和辞典』岡本好次編を刊行(7月) 会員 8月に1321名	JQAK(大連)E講習を放送(2.6)	万国郵便連合、Eを平語として取扱い	昭和改元(12.25)
1927	鉄道省、JEIに委託して、E冊子『日本案内』刊行	JOAK(東京)Eラジオ講座(12.13~24) JOCK(名古屋)Eラジオ講座(9月) 小坂狷二『エスペラント捷徑』刊行		昭和金融恐慌
1928	事務所を東京・牛込区新小川町3-15(旧事務所に隣接)に移転(12.9)	日本盲人E協会結成		特別高等警察設置
1929	会員名簿発行(2181名)	JOCK(名古屋)Eラジオ講座(3月)		世界恐慌
1930	中村精男(理事長)死去(1.3) 第2代理事長 大石和三郎就任(~1945)	E国際中央委員会(ICK)シェラー来日(10.5)	SAT, "Plena vortaro" 刊行	
1931		日本プロレタリアE同盟(JPEU)結成 委員長秋田雨雀(1.18) 日本仏教E連盟結成 日本鉄道E連盟結成 全国学生E連盟成立 JOBK(大阪)Eラジオ講座(7.20~8.29) 第1回台湾E大会		満州事変(9.18)
1932	書記長に岡本好次就任 学会業務専任(~1937)	第1回北海道E大会(空知)		満洲国成立